



1 2 創立100周年寄稿

3 キャッチコピー・ロゴの紹介

3 2011年度事業予算（暫定）

3 創立100周年記念事業募金寄付者芳名

4 募金に関するお願い

明治高等学校・中学校は、来る2012年3月に記念すべき創立100周年を迎えます。この大きなターニングポイントに臨み、本校は、校長を委員長とする「創立100周年記念事業委員会」を設置し、2009年10月から今まで8回の委員会を開催して記念事業についての検討を重ねてまいりました。

現在は、キーコンセプトである「世界へ—世界に飛び出し『己』を知ろう—」のもと、2つのキャッチコピー「紫紺を胸に、羽ばたけ未来へ」、「紫紺を胸に、羽ばたけ世界へ」を掲げ、記念事業について具体案を企画・計画し、既にその一部を実行に移しています。

この記念事業NEWSでは、今後6回（予定）の発行をとおして、本校関係者やご寄付をお寄せいただいた皆様に、事業内容や進捗状況をお知らせしてまいります。

多くの方々がこの創立100周年記念事業についてご理解を賜り、各事業に参画いただければ誠に幸甚です。本号では、まず、この事業のキーコンセプトとそれに基づく事業計画の概要についてお知らせします。

《キーコンセプト：「世界へ—世界に飛び出し『己』を知ろう—」》

創立100周年記念事業の牽引的役割を果たすこのキーコンセプトは、今後の本校の新たな教育指針でもあり、グローバル社会をリードする人材の育成を表しています。また、大学の創立130周年記念事業のキーコンセプトである「世界へ—『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ—」と軸を一にするものであります。これまでの歴史を振り返り、その歴史にあらためて感謝すると共に、将来に向かう決心を表現しています。

《記念事業計画の策定》

本校では、創立100周年記念事業を、これまでの100年の伝統と偉業を顕彰するとともに、本校の「第2世紀」に繋がる重要な事業にしたいと考えております。新たな世紀の飛翔を期して、一過性の行事・イベントとならないよう、現在、次の4部会を設置し、各部会において事業を計画しています。個々の事業については次号以降で紹介いたします。

- 教育振興プログラム部会（教育振興プログラム担当）
- 記念誌部会（100周年記念誌担当）
- 式典部会（記念式典及び記念事業担当）
- 募金部会（募金担当）



100周年記念事業ニュース発刊に寄せて

創立100周年記念事業委員会委員長兼
明治大学付属明治高等学校・中学校
校長 金子光男

本校は明治大学の創立30周年を記念して設立が発議され、1912年4月に駿河台の地、現在の明治大学リバティタワーの付近に開校されました。その後、火災、戦災という幾多の困難を乗り越え、神田猿樂町の地を経て、2008年、武蔵野—調布に移転しました。本校は、これを契機に、それまでの男子校を男女共学校に改め、現在、次代へ向けて新たな一歩を踏み出しております。

来年3月には100周年という大きな節目を迎える本校は、さらなる飛躍の機会ととらえ、現在、「質実剛健」、「独立自治」の校訓のもと、先人によって築かれた輝かしい伝統を維持しつつも、向こう100年を見据えた本校の未来像、活力と魅力あふれる教育・学校づくりを実現するため、新たな教育基盤の構築を目指しております。

このため、小職の下に「創立100周年記念事業委員会」を設置し、「世界に開かれた大学」を目指して飛躍を続けている明

治大学の130周年記念事業コンセプト「世界へ—『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ—」に対して、直系付属校として軸を一にするべく、「世界へ—世界に飛び出し『己』を知ろう—」をキーコンセプトとして、この記念事業について検討を重ねてまいりました。創立100周年記念事業では、前述の教育基盤の構築やグローバル化を主とした生徒のための記念教育事業や教育振興に係る本校独自の奨学金制度の創設を柱とし、併せて記念式典・祝賀会や創立100周年史の編纂・発行等も計画されております。

これらの記念事業は、本校の教職員だけではなく、大学関係者、保護者、卒業生、学識経験者、本校を愛する皆様とのインタラクティブ（双方向型）なプロジェクトとして位置づけられ、関係者が一体となって推進を図りたいと存じます。皆様には、是非ともこの100周年記念事業を、本校の「第2世紀」に繋がる意義ある事業として御理解いただき、各種記念プロジェクトやイベントへの積極的な御協力・御参加を心よりお願いいたします。



創立100周年にあたって

創立100周年記念事業委員会副委員長兼

総明会会長 尾島 育四郎

平素より明治中学校・高等学校及びPTAの皆様方には、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

はじめに、3月11日に発生した東日本大震災は未曾有の大災害をもたらし、多くの人々がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り致します。今なお救助活動や避難生活が続く中、被災地の皆様の日も早い復旧と復興を願うばかりです。

さて、来年の100周年事業は、「世界へー世界に飛び出し『己』を知ろう」をキーコンセプトとして今後百年の教育基盤を築く貴重な契機であります。総明会も全力を挙げて母校の百周年に協力して参ります。

総明会の纏まりは、多くの卒業生の献身的な総明会に対する貢献、母校と仲間を思う情熱とボランティア活動の賜物です。その活動は今、同窓会に対して無関心な卒業生が多くなりつつある他の中学・高校から驚異の眼差しで見られておりますが、

母校を愛する心、友人を大事にする心、人と人の関わりを大事にする事が総明会の纏まりに結晶されています。このような同窓会を慕った新しい会員が誕生する事が伝統を紡ぎ続けます。そして今年から女性会員も誕生しました。それは単に新会員が誕生しただけではなく、今後も高い理念の基に、時代に対応した伝統を伝えて行く事が必要です。金子校長先生が目指している、今後百年の教育基盤を築く事は大変大事な事でありです。教育は国家百年の計、社会を作り、人を作ります。その中で総明会活動は重要な役割と責任を果たすと信じております。

日本は今、大震災の甚大な被害からどう立直るかを必死に探っています。単に以前に戻るのではなく、新たな発想を盛り込んで未来を切り開く、いわば創造的なプロセスに入ろうとしています。今後の百年を創造し、母校と共に総明会も発展する事を信じています。



紫紺を胸に、新たな世界・未来へ羽ばたけ

PTA会長 中村 一雅

PTA会員の皆様、また本校の同窓生の皆様方には既にご承知のことであると存じますが、本校は来年度、創立100周年を迎えることとなります。

本校は1912年に神田駿河台の明治大学の構内で明治大学の直系の付属校として、「質実剛健」「独立自治」という精神をもとに開校されました。「明治大学」のイメージ同様にバンカラで明るく、心身ともに強くたくましい男子校として歴史を積み重ねてきました。2008年に調布に移転と同時に男女共学化となり、華やかで現代的な学校として雰囲気が一変した今では、明治大学と同様に、「入りたい学校」として受験生や保護者からの人気も上昇してきております。しかし、それは歴史と伝統、長く引き継がれている「紫紺の思い」というものまでが変わってしまったという事ではなく、「明治らしさ」というものは不変であると思っております。

そしていよいよ来年度創立100周年を迎えますが、既に、さまざまな記念事業の準備が始まっており、記念式典・祝賀会、地域の皆様との交流事業、教育振興事業、記念誌の発行、等々が予定されています。今回のこの「ニュース」もその一環として発行されたものです。この歴史の節目に我々は、運よく巡り合えたのですから、是非一緒に記念事業を盛り上げ、楽しむものではありませんか。

本校がこれまで多くの優秀な人材を輩出してきたことはいまでもありません。また今後も、時代の暁の鐘を打ち鳴らし、社会を先導していく人材、新たな世界・未来に向かって日本国のみならずグローバルに活躍する人材を養成する学校として、その存在意義を高めていくことを願っております。そのスタートラインとして、本校の関係者の皆様とともに、創立100周年記念事業の成功を期したいと存じます。皆様方の、より一層のお力添えをお願い申し上げます。



正義の鐘を打ちて鳴らさむ

白駿会会長 依元 正美

明治中学校・高等学校が、来年創立100周年という節目の年を迎えられることを心からお祝い申し上げます。

明治中学校・高等学校PTAは、1947年9月に明治中学PTAとして創立されて以来、今日に至っているところですが、その歩まれた64年の道程に刻まれた色々な試行錯誤、色々な創意工夫の果実、すなわち先達の知恵により現在のPTA組織及び事業活動が形成確立いたしました。

そして当白駿会も、本校を卒業した生徒の父母として、本校並びにPTA活動に協力できる組織として今日に至っております。

今この充実した施設を持てた時だからこそ思うのですが、学校の真価は、その建築や設備だけにあるのではなく、そこから巣立つ人材が、社会に有用でなければ、学校の値打ちはないと

思うので御座います。

幸い明治中学校・高等学校は、御指導いただく先生方の大変な御努力の結果、この堂々たる校舎にふさわしい素晴らしい人材を毎年輩出しており、私は本校に息子を預けられたことに大きな誇りを得ております。

学校は地域の文化センターとよく言われております。学校が立派な学校として存在すれば、地域の文化も日本の文化もそれだけ高くなります。私はそうあって欲しいと常に念願しております。

私達が来年創立100周年という輝かしい歴史の節目に立ち会えることを大いなる喜びとして、一世紀に一度の記念大事業を関係者全員で成し遂げようではありませんか。

終りに、明治中学校・高等学校の今後益々の御発展と関係者の皆様の御健康を心から祈念いたします。

創立100周年記念事業の キャッチコピー&ロゴマークを 決定しました！

本校では、昨年、生徒、保護者、卒業生を対象に、創立100周年記念イベントなどに使用するキャッチコピー&ロゴマークを募集いたしました。キャッチコピー部門には130作品、ロゴマーク部門には334作品のご応募をいただき、厳正なる選考の結果、キャッチコピー部門は最優秀賞1作品・優秀賞3作品、ロゴマーク部門は最優秀作品2作品・優秀作品3作品を選出いたしました。その後、創立100周年記念事業委員会においてアレンジを加え、次のとおり、2つのキャッチコピーとロゴマークを決定いたしました。

《キャッチコピー》

「紫紺を胸に、羽ばたけ未来へ」「紫紺を胸に、羽ばたけ世界へ」

《ロゴマーク》



2011年度 事業予算

2011年5月24日(火)に開催された、第8回創立100周年記念事業委員会において、2011年度の事業予算(暫定)が決定しましたので、お知らせいたします。

	金額	備考
旅費交通費	360,000	資料収集出張、業務用交通費等
郵便費	326,000	事業ニュース、領収書発送等
消耗品費	690,000	封筒、記念グッズ等
支払手数料	3,000	振込手数料
業務委託費	2,000,000	校内広告
運搬費	5,000	宅急便
印刷製本費	310,000	事業ニュース印刷等
助成費	200,000	文化・スポーツ海外交流支援
計	3,894,000	

創立100周年記念事業募金寄付者芳名

2011.5.31まで到着分累計 252件 4282万7311円

2671万円 (累計) 明治大学付属明治 高等学校・明治 中学校PTA殿	業生保護者一同殿 匿名1名 20万円 中村 正容殿 匿名1名 12万円 北村 純殿 10万円 井上 薫殿 岡田 敬太郎殿 尾島 育四郎殿 笠松 浩義殿 佐久間 洋一殿 杉田 光治殿 瀬上 富雄殿 土岐 明利殿 中島 富之殿 西脇 司殿 前島 研二殿 松倉 康信殿 丸山 哲朗殿 明治大学付属明治 高等学校応援団 OB会殿 吉田 重幸殿 渡邊会計事務所 渡邊 敬之殿 匿名11名 9万円 匿名1名 7万円 匿名1名	6万円 鈴木 敏雄殿 匿名5名 5万円 石川 恵資殿 石川 隆殿 石坂 善正殿 鶴飼 友義殿 笹内 律恒殿 島崎 真一殿 鈴木 豊殿 竹内 雅彦殿 田中 和彦殿 結城 康郎殿 横山 茂樹殿 米山 耕右殿 匿名6名 3万円 赤羽 太郎殿 伊藤 哲殿 宇田川 貴弘殿 木下 弦殿 齋藤 瑠香殿 渋谷 拓郎殿 高木 正之殿 高村 裕殿 浪越 和民殿 野地 優太殿 原 大貴殿 樋口 翼殿 日比谷 功一殿 日比谷 秀徳殿	平田 裕貴殿 平光 隆一殿 松ヶ野 寛殿 三澤 清志殿 森川 勝弘殿 安田 芳照殿 横山 亜加子殿 匿名24名 2万円 石渡 浩二殿 一色 隆行殿 大塚 博殿 白井 慶幸殿 丞村 裕次殿 菅野 幹雄殿 中村 勝利殿 横山 和男殿 匿名8名 1万円 秋谷 操殿 秋山 義昭殿 朝貝 省吾殿 新井 勝良殿 井形 豊殿 石川 淳殿 石田 真吾殿 正宗産業(株) 代表取締役 市川 洋治殿 大野 和喜殿 大堀 雅義殿 大山 義廣殿	緒方 奨殿 岡本 恒明殿 小田嶋 保男殿 笠井 隆司殿 加藤 義隆殿 金光 淳規殿 木崎 左一殿 木村 修殿 清田工芸(株)殿 国友 昭殿 小宮 由次殿 小室 輝夫殿 佐久間 敏行殿 笹田 照雄殿 島野 竹夫殿 清水 通殿 志村 隆行殿 姿 卓殿 杉本 正太郎殿 鈴木 強殿 鈴木 誠殿 關谷 真司殿 染矢 太郎殿 高橋 晴邦殿 高橋 淑浩殿 辻村 誠之殿 長束 政憲殿 野村 尚之殿 林 正信殿 日向 功殿 藤井 義則殿 藤田 拓殿	布施 義男殿 ベップ・メイツ(株) 大前 実之殿 松原 利夫殿 丸山 貞二殿 三浦 二郎殿 三木 喜晴殿 宮坂 利夫殿 向山 勝殿 茂木 正男殿 盛田 明殿 森綱 繁夫殿 森脇 学殿 矢澤 利之殿 矢野 正興殿 山崎 陽一郎殿 山田 啓介殿 吉田 茂夫殿 米山 武男殿 匿名41名 5千円 河西 昭安殿 北村 隆英殿 仙北屋 格殿 田中 不二彦殿 守田 満殿 匿名7名 3千円 金子 光太郎殿 平井 伸治殿 匿名
--	---	---	--	--	--

明治大学附属明治中学校・高等学校
創立100周年記念事業募金への協力をお願い

募集要項

(1) 受付期間

2010年11月1日～2013年3月31日

(2) 振込先

振込先は三井住友銀行です。専用の振込用紙でお振込ください。三井住友銀行の本・支店の窓口でお振込いただくと、手数料は不要です（振込は窓口のみ。ATM、インターネットバンキングには対応していません）。

(3) 募資金額

個人の方には1口3万円以上、法人・団体の方には1口10万円以上の御寄付をお願い申し上げます。なお、1口未満でのお申し出にも、喜んで承らせていただきます。

(4) 銘板刻印

個人1口3万円以上、法人・団体1口10万円以上を御寄付頂いた方は、明治中学校・高等学校創立100周年記念募金寄付者銘板に御芳名を刻印（創立100周年記念事業終了後に校舎内に設置予定）いたします。

なお、銘板には御希望により、保護者の御芳名から御子息・御息女の御芳名に代えて刻印することができます。

(5) 免税措置

2千円を超える御寄付は、所得税法第78条第2項第2号の規定に基づき、特定公益増進法人に対する寄付金として、当該年の所得の控除対象となります。御寄付後に本校からお送りする「領収書」と文部科学省の「特定公益増進法人証明書」(写)を添えて所轄税務署に確定申告をしていただくと、所得税の還付が受けられます。

(6) その他

御協力頂いた方の寄付金額・御芳名は、明治大学広報に掲載させていただきます。なお、金額又は御芳名の掲載を辞退される場合は、寄付金お申込の際に振込用紙にてその旨お知らせください。

(7) お問い合わせ先

高等学校・中学校事務室 募金係

【TEL：042-444-9102 FAX：042-498-7800】

メール：ko_chu@mics.meiji.ac.jp

事務取扱時間：9:00～17:00

（土曜、日曜、祝祭日及び年末年始等を除く。）

●紫紺祭（文化祭）について●

2011年11月5日（土）10:00～16:00（予定）

11月6日（日）9:30～15:00（予定）

飛田給駅、三鷹駅から送迎用スクールバスを運行予定です。文化祭の詳細、バス時刻表は、ホームページで御確認ください。

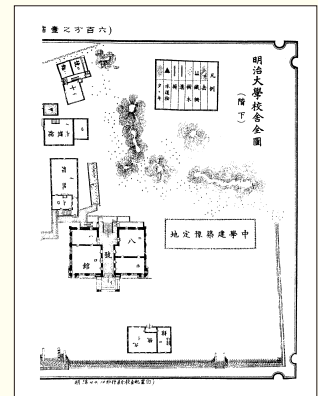
100周年編纂余語

<明治中学校の創立>

十一月
候也
明治
大
学

校友諸君ニ告グ

本
大
学
附
属
中
学
校
創
立
ノ
儀
ニ
付
テ
ハ
鑿
ニ
得
貴
意
置
候
處
愈
明
年
四
月
ヨ
リ
授
業
ヲ
開
始
ス
可
キ
都
合
ニ
テ
目
下
本
学
構
内
豫
定
ノ
場
所
ニ
建
築
工
事
中
ニ
有
之
候
此
段
報
告



上にある通知文は『明治学報』第21号（1911年11月）に掲載されたものである。同誌の創立30周年記念号（同7月）に「明治大学校舎全図」に「中学校建設予定地」が書き込まれていたため、明治中学校の創立は周知の事実であった。ところが、大学記念館の出火によって完成間近い明治中学校校舎も類焼してしまったのである。

その後、校舎建設や入学式などの詳細は、今後の調査を待たなければならないが、5年後の4月1日に第1回卒業式が大学記念館で挙行された。このときの卒業生は72名であったという。これは、開校直前の罹災にもかかわらず、明治中学校が教育活動を続けていたことを伺わせるものである。

明校ひとくちメモ

本校の創立は？

資料によると、1911年（明治44年）9月1日当時の明治大学理事の岸本辰雄氏が東京府知事に本校の設立許可を提出されたそうです。正式名称は、明治大学附属中学校でした。設立許可証が現存していればよかったのですが、不明。でも翌年の1月27日には既に設立が認められていたようです。当時ですからもちろん男子校で、住所は、東京市神田区駿河台南甲賀町14番地、つまり現在のリパティタワーの正面右側あたりでした。それから100年が経つのです。



●次号のお知らせ●

第2号は2011年12月下旬に発行予定です。